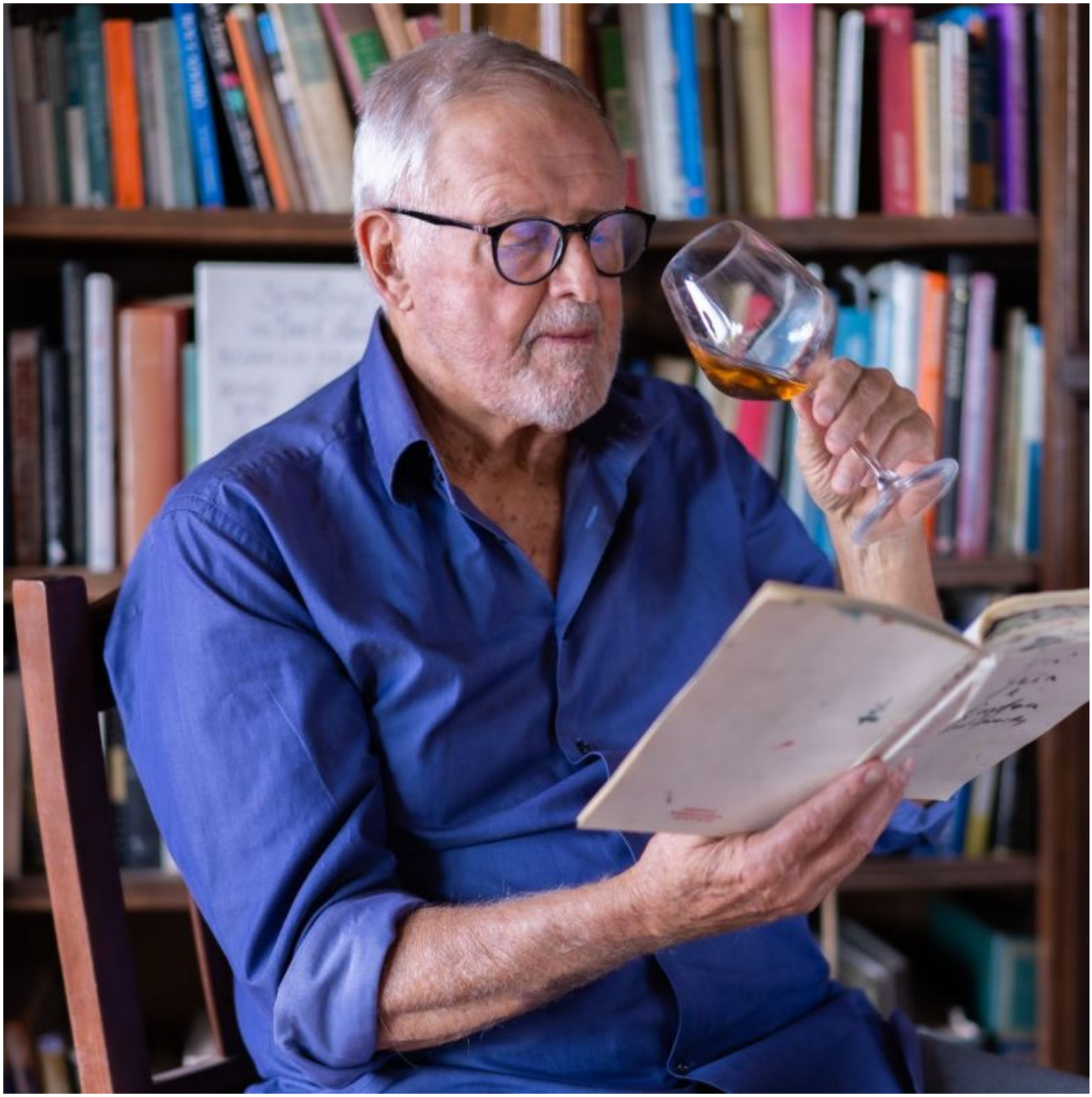
vinetur

イタリアワインを伝えた著名な書き手、バートン・アンダーソン氏が90歳を目前に死去

著書を通じ、英語圏の読者にイタリアのブドウ畑、生産者、土着品種の伝統を紹介したバートン・アンダーソン氏が死去。

2026年11月13日（金）



イタリアワインを国際的に広く紹介する一助となった米国人ワインジャーナリストで作家のバートン・アンダーソン氏が、90歳を目前に死去した。WineNewsが11月13日金曜日に伝えた。

ミネソタ州生まれのアンダーソン氏は、イタリアワインを英語で紹介する最もよく知られた書き手の一人となった。数十年にわたり、イタリアのブドウ畑や生産者、地域の伝統について執筆した。当時、イタリアのワイン産地の多くは、専門家の間以外ではまだほとんど知られていなかった。急速に変化し、世界から継続的な注目を集め始めた業界を理解しようとする読者や輸入業者、ワイン業界関係者にとって、彼の著書は重要な参考資料となった。

代表作には『Vino: The Wines & Winemakers of Italy』や、『Burton Anderson's Guide to Italian Wines』の複数の版がある。また、1988年刊行の『Biondi Santi: the Family That Created Brunello di Montalcino』や、1999年刊行の『Franciacorta, Italy's Sanctuary of Sparkling Wine』など、生産者や地域を取り上げた著作も手がけた。

アンダーソン氏の著作は、イタリアワインにとって重要な時期に世に出た。1980年代には、イタリアを代表する多くの産地が海外で新たな注目を集めていた一方、同国のワイン地図は複雑で、海外の読者には分かりにくいことも多かった。アンダーソン氏は、ブドウ品種や原産地呼称、生産者、地域の歴史について、明快で親しみやすい英語で書いた。農業の深い伝統を持つ国が、土着品種や長い歴史を持つ産地を再発見しながら、いかにワイン産業を近代化していったかを伝える助けとなった。

こうした役割を通じて、アンダーソン氏は特別な影響力を持つようになった。ボトルの批評や市場動向の報道にとどまらず、国際的な読者がイタリアワインを、フランスなど知名度の高いワイン産出国との比較ではなく、イタリア独自の視点から理解するための言葉を築いた。著書ではワインを文化、地理、家族の歴史の一部として捉え、イタリア国外ではまだ知られていなかった生産者にも光を当てた。

WineNewsはアンダーソン氏を、ワイン批評とストーリーテリングにおける歴史的な存在と評し、イタリアワインの世界的な認知度向上に貢献した書き手の一人だと伝えた。同メディアによれば、1980年代以降、彼の著書はイタリアワインを世界の読者に紹介するうえで重要な役割を果たした。

過去にWineNewsのインタビューに応じたアンダーソン氏は、イタリアのワイン業界で目の当たりにした変化の大きさを振り返った。過去30年間の進歩は、それ以前の3,000年間を上回ると述べ、特に土着品種から造られるワインへの評価が高まったことを指摘した。一方で、数値評価への依存が強まり、ワインの語られ方が損なわれているとも警鐘を鳴らした。

同インタビューによると、アンダーソン氏は、評価点だけに頼るのではなく、ワインやブドウ品種、クリュについての物語を中心に据えた報道や発信に立ち返るべきだと主張した。この発言には、彼の仕事の多くに通底する考え方が表れている。ワインは場所や伝統、人の判断の産物でもあり、単純な数値の序列に還元できるものではないという考えだ。

WineNewsのアレッサンドロ・レゴリ編集長は、アンダーソン氏は偉大なワインライター、ジャーナリストの一人だったが、見過ごされることも多かったと語った。レゴリ氏によると、イタリアワインの物語を伝え、アンダーソン氏がキャリアを始めた初期には大きく異なり、ほとんど注目されて

いなかった生産現場への関心を呼び起こしたことから、その貢献は欠かせないものだった。また、自身のワインへの理解はアンダーソン氏の著作からも形づくられたと述べ、死去は業界にとって大きな損失だと語った。

この追悼の言葉は、ワインについて書き、仕事をする人々の間でアンダーソン氏が高く評価されていたことを示している。強い意見や採点方式で名声を築く批評家がいる一方、アンダーソン氏は丁寧な解説と幅広い歴史的視点で知られた。著書では有名な生産者を取り上げるとともに、イタリアのブドウ栽培における知名度の低い地域にも目を向け、ワイン産地を棚に並ぶラベルではなく、人々が暮らす場所として読者に伝えた。

アンダーソン氏の著作は、デジタルで情報が瞬時に行き交う現在より前の時代に生まれた。当時、生産者や産地に関する英語の情報は、はるかに限られていた。そのため、彼の報道は一層重みを持った。読者がガイドに求めたのは、お薦めだけではなく、全体像をつかむ手がかりでもあった。イタリア国外の多くの人々にとって、彼の著書はアルプスの谷から南部の島々まで広がる、多様で細分化されたワイン文化への入り口となった。

アンダーソン氏のキャリアは、現代イタリアワインにおける最も重要な時期の一つと重なる。品質基準が大きく向上し、輸出への意欲が高まるなか、多くの生産者がブドウ畑の管理と醸造技術の双方に投資した。同時に、近代化と地域の個性をどう両立させるかをめぐる議論も活発化した。アンダーソン氏はこうした変化を伝える一方、その背景にいる人々や土地にも目を向け続けた。

アンダーソン氏の死去により、こうした変革を見届け、世界に伝えた書き手の一人が失われた。英語でイタリアワインを追ってきた読者や生産者、ジャーナリストにとって、彼の著書は、イタリアワインが一部の愛好家に評価される存在から、世界のワイン取引を牽引する中心的な存在の一つへと変わっていった過程を記録するものとして、今後も残り続ける。